

1. あなたがたの高慢は、よくないことです。あなたがたは、ほんのわずかのパン種が、粉のかたまり全体をふくらませることを知らないのですか。新しい粉のかたまりでいるために、古いパン種を取り除きなさい、あなたがたはパン種のないものだからです。私たちの過越の子羊キリストが、すでにほふられたからです。(5:6-7)
  - a. まず一つは、私たちが自分の罪に気付いていない時それを指摘され、悔い改める、という行為。これはパウロがガラテヤ書の最初の4章で取り扱ってきた問題である。人々はそれぞれにリーダーを選び分派に分かれることが罪であるということに気付いていなかった。指摘されたら悔い改める、というのが誠実なクリスチャンが取るべき態度であろう。
  - b. もう一つは、罪の中にいるのをわかっていながらそれを恥ずかしいとも思わず、反省の態度も見られない場合。最もひどいのは罪の中にいて恥ともせず、それを偉いことでもあるかのように高慢になることである。
  - c. 私たちの住む社会では、正しいことと間違ったことが相対化され、キリスト教の価値観が馬鹿にされ嘲笑され、罪を誇る事が正しいことであるかのようにみなされ、真実のために立ち上がる勇気を持つ者が悪者扱いされ、黙らされ、時には殉教する、ということが起こっている。
  - d. この世が罪ある行動をとるのはやむを得ないが、ショックなことに教会も何ら変わらない問題を起こすことがある。この章でパウロは、教会外の人たちもが驚くような性的不品行が横行していることにごくぜんとし、しかも教会はその罪を悲しむどころか誇り高ぶり祝っていた。
  - e. 彼らは、神の恵み — このような行為をも許してくださり、どんなに罪がはびこっても神の恵みがすべてを覆ってくださるという福音的なもの — を誇っていたのか、あるいはただ単にこのような不品行を喜び教会の中で浮かれ騒いでいたのか・・・どちらだったのかはわからない。
  - f. たしかに神の恵みは私たちの罪を覆ってくださる。しかし罪を犯すための許可証のように恵みを利用する者もいる。この二つには大きな違いがある。
  - g. 罪は悔い改めなければパン種（イースト菌）のように作用する。イーストはパンを膨らませるために使われる小さな媒体である。このたとえば、わずかなイーストが生地全体に広がり分離できなくなるように、一人の人間から出た罪は教会全体に影響を及ぼす、という状態を表している。
2. ですから、私たちは、古いパン種を用いたり、悪意と不正のパン種を用いたりしないで、パン種のはいらない、純粹で真実なパンで、祭りをしようではありませんか。(5:8)
  - a. パウロは種なしパンの祭りにおいて、家からすべてのパン種を取り除く習慣を例に挙げている。パン種は聖書の中では罪や偽りの教え、教義と関連している。ここでは罪を悔い改めない人々のことを指していると考えられる。
  - b. 厳しく聞こえるかもしれないが、自分は信者であると主張しつつも自分の罪ある行動に対して悔い改めをしない者は教会から除外するように、と命じられている。
  - c. これは罰を与えるということではなく、人々が主からの相続を失わないようにするため、また教会全体として罪ある行動を容認したというさばきを受けないようにするためである。